

果樹カメムシ類の飛来にご注意ください (カキ, リンゴ, 晩生ナシなど)

[現在の状況]

8 月第 3 半旬現在, 予察灯(かすみがうら市)への果樹カメムシ類の誘殺数は, チャバネアオカメムシは平年並み, クサギカメムシは平年よりやや多い(図 1)。

8 月 20 日現在, 生息地であるヒノキ林での果樹カメムシ類成虫(チャバネアオカメムシ, クサギカメムシ及びツヤアオカメムシ)の発生量が増加しており(図 2), 今後主要な餌であるヒノキ球果が不足すると, 果樹園への飛来が増加すると予想される。

ヒノキ球果の吸汁痕数は増加しており(図 3), 9 月以降はヒノキ球果の不足により果樹園への飛来が平年よりやや多くなると予想される。

8 月下旬現在, ナシ及びカキの被害果率は平年並であるが, 一部でカメムシ類が多く飛来し被害果が出ているほ場も見られる。

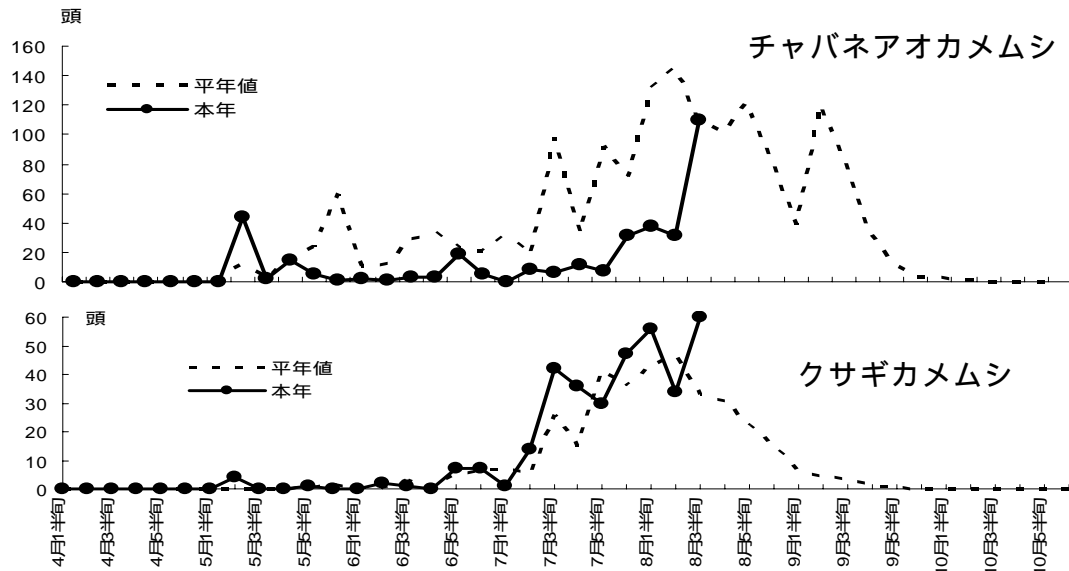


図 1 予察灯への果樹カメムシ類の誘殺数推移(かすみがうら市)

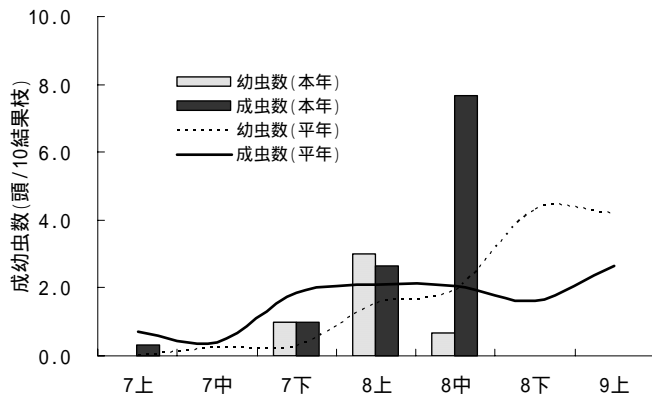


図 2 ヒノキにおける果樹カメムシ類の生息密度
(チャバネアオカメムシ, クサギカメムシ及びツヤアオカメムシの合計)

生息密度調査: 県内 3 地点において, 地点ごとに 10 結果枝をたたき, 捕獲した成幼虫数を調査した。図中の値は, 3 地点の平均値を示す。

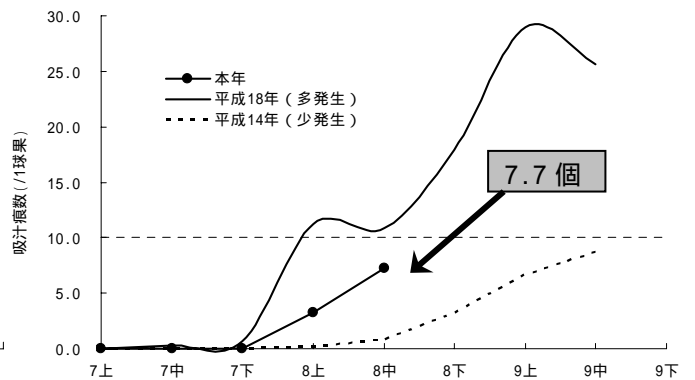


図 3 ヒノキ球果吸汁痕数の推移

吸汁痕調査: 生息密度調査時に, 地点ごとに 30 球果を採取し, カメムシ類による吸汁痕数を調査した。図中の値は, 3 地点から採集された全ての球果の平均値を示す。

【*チャバネアオカメムシの生態と発生予察について】

果樹を加害するカメムシ類の中で、最も発生の多いチャバネアオカメムシは、ヒノキ（桧）の球果を主要な餌として繁殖している。球果が不足すると、果樹園へ飛来し、果実を加害する。

カメムシ類が球果を吸汁すると、吸汁痕と呼ばれる痕跡が残るので、カメムシ類の調査に利用している。茨城県病害虫防除所の調査による過去7カ年の事例では、9月上旬までにヒノキ球果の吸汁痕数が10個/1球果を超えた場合に、巡回調査でカキでの被害果が確認されている。

[防除対策]

夜温が高いと活動が盛んになり、果樹園へ飛来するので、注意する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合には、収穫前日数に十分注意して、表を参考に薬剤防除を行う。

カメムシ類では薬剤抵抗性が確認されておらず、各薬剤とも十分な効果が期待できる。ただし、合成ピレスロイド系薬剤は他の害虫の天敵類（クモ、寄生蜂など）に及ぼす影響が大きいため多用は避ける。

薬剤散布は、カメムシ類の活動が鈍い早朝に行う。

薬剤を散布する場合は、農薬のラベルに書いてある農薬の使用基準を遵守するとともに、周囲に飛散（ドリフト）しないよう十分注意する。

表 果樹のカメムシ類に対する主な農薬の登録状況（：登録有り）（平成21年8月19日現在）

系統名	作物名			備考	
	薬剤名	カキ	リンゴ		ナシ
ネオニコチノイド*	アクタラ顆粒水溶剤				収穫前日数に 十分注意する
	アルパリン顆粒水溶剤				
	スタークル顆粒水溶剤				
	ダントツ水溶剤				
	アトマイヤー水和剤				
合成ピレスロイド*	アクロスリン水和剤				
	スカウトフロアブル				
	ロテイエー水和剤				
有機ケイ素	MR.シヨーカー水和剤				
有機リン	デイフテレックス乳剤				

農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項等を確認のうえ使用してください。